



第112号

発行所 上高井教育会 会長 男長博
 発行人 上高井教育会 義集委員 長川博
 編集人 岡部 報集委員 須川博
 印刷所 須坂新聞社

教育会の歩み

一年を顧みて

副会長 堀内文夫

「教師は、教育愛に燃え百年度の教育に向けて新しい教育・心の教育を求めていこう」これは、総会で岡部会長が会員に呼びかけたことばです。会員一同そこに教育の根底を見出し、このことばに結集して今年度の出版をしました。格別にも今年、上高井教育会創立百周年を迎え、会員の総意を結集して、会長の願う愛と知性に輝く百周年記念事業を実施してきました。

具体的事業内容としては、

- 一、上高井教育の歴史書として、また新しい時代の教育の指針となることを願って、記念誌「上高井教育のあゆみ」を、三年の歳月をかけて刊行しました。
- 二、先輩が築かれた百年の足蹟に学び、更に新しい百年に向かつて充実した教育実践を進める上高井教育の象徴として「不易流行」を設定し、上條信山先生揮毫による額を会館の会議室に掲げました。
- 三、先輩が教育の理想を追って実践されてきた姿を読みとり、新しい時代の教育実践の糧になることを願って、昭和三十六年十二月発行の第一号より、この度の百周年記念特集百十号までの会報を復刻合冊版として刊行しました。
- 四、諸般の情勢に鑑み、百周年を契機に会員に計り、会館移転改築委員会を作り、目下規模や資金計画について構想中であります。
- 五、十月十九日には記念式典を須坂小学校体育館で、祝賀会を須坂市公民館で行いました。来賓・旧会員・現会員総勢三百五十名余で盛会にとり行われました。冒頭会長より不易流行の象徴のもとに上高井教育会の進むべき骨子四つにふれ、先輩より、和をもって尊しとなすという精神にひきつがれた上高井教育会を、永遠なるものにしていきたいと決意が語られました。

来賓祝辞の中で、元教育会長代表の城本重男先生が、健康を損ねておられるにもかかわらず、ノー原稿で落着いた声で我々に教え諭すようにお話された姿に心から感動し、教育現場を預る者の責務の重大さを痛感いたしました。

式典後、元文部大臣永井道雄先生の「二十一世紀を志向した教育の課題」という記念講演を聞きました。先生は、過去百年の歴史の変遷を語り、これからの百年を生きる日本人は、日本人の中にある人間に目覚めよ。そしていつまでも瑞々しさを失わず、謙虚なうちにも自信をもち、愛と信頼に立って忌憚なく議論し合うことが大切だと語られたが、我々は深く考えていく必要があると思います。

次に伝統ある上高井教育会の研究委員会は、中心講師三枝先生ご指導のもと「子ども

が自ら創り出し追求する学習のあり方」をテーマとし、具体的には授業分析を通して三年間研究を積み重ねてきました。その成果として、子どもとのえがより確かになり、子ども・教材・教師のかかわりを深める学習過程が仕組め授業改善の方法を探ることができるようになりました。そして、その成果を「子どもが創り出す学習——授業分析を通して——」という研究集録にまとめて発刊するよう進めております。

研究活動と並んで同好会活動も、それぞれの独自性を生かした活動を進め、成果を上げてきました。ただどの同好会も参加者の増加に意を用いているようです。

第九回教育懇談会では、五十三名が集い現場の悩みを語り合い、教育の厳しさを追求し、年代・性別を越えて自らに磨きをかけるべく忌憚のない話し合いができました。

第七回研究発表会、第六回女教師研究大会も年々その厚みを加え、自らを耕し続けてきた実践・研修の発表を聞き深い感銘を受けました。

このように百周年の大事業をやりながら、例年の事業も一段と成果を上げることができたことは、会員一同の教育愛と和の心の賜と心から感謝申し上げます。今年度の成果を大切に、次の百年に向けて生かしていくことをともに誓いたいと思います。

(栗ヶ丘小)

—上高井教育会だより—

- 1・8 臨時常任委員会
- 11 第38回信教女教師研究大会(飯田市)
- 21 教科研究世話係・委員長会(3)
- 27 上高井教育会報111号発行 特集1第7回研究発表会・第6回女教師研究大会
- 28 同好会世話係・会長会(3)
- 30 臨時代議員会
- 8 第8回常任委員会
- 13 第9回代議員会
- 22 第9回常任委員会
- 5 上高井教育会報第112号発行
- 6 第10回代議員会
- 10 上高井教育会誌第42号発刊

郷土の文化財 ⑦③

高井鴻山の大幟

福島町・天神社

明治初期、福島地区は水害による被害も大きく人心は極度に動揺荒廃していた。

水損を受けた鎮守天神社の復興新築を、五年の年月をかけ明治十三年に完成した。

社殿再建に合わせて記念の大幟新調がなされ、その揮毫

を高井鴻山に依頼した。

大幟の長さは十二間余、巾二間一尺二寸、

大幟の揮毫

「懋 徳」(徳をつとむ)

「護 衛」(道をまもる)

この大幟は、特別記念祭の折に奉建される。



本年度の実践をふりかえって

…… 年度末をひかえ、各校では一年間の教育実践をふりかえり、反省、まど
 …… めの時期をむかえておられることでしょう。ここに4名の先生方に貴重
 …… な実践研究をお寄せいただきました。私たちの本年度の実践をふりかえ
 …… る指針となってくれるものと思います。

わたしたちの小麦

パン作り

宮下美智子

今年度は合科総合研究委員会で授業をさせていただきました。委員会の先生方の御援助で、一年生の時から育ててきた小麦の学習をまとめ、発表することができ、子供たちにとっても、また私にとっても、大変充実した年になりました。

「パンとごはんは、どこがちがうの？」という給食の時の子供たちの質問から、小麦を見せたところ、理科の種の学習も手伝って、「その麦を学級園にまいて、たくさんにして、パンを作りたい」ということになりました。全員、非農家で農作業の経験は少ない子供たちですが、「パンを作りたい」という目的意識から、「麦さんのために」と、肥料運びや草とり、土よせなどの苦勞な仕事も喜んでやりました。見に行くたびに、子供たちならではの驚きや発見があるので、記録用紙に絵と作文を書かせ、本にまとめることにしました。

成長する小麦の丈を測るため、ものさし学習や、大切な麦をすずめに食べられたこと、一粒の麦から二十粒以上も収穫できることなど、麦を通して、いろいろな学習をすることができました。

運動会、音楽会には、育ててきた体験をまとめて、ダンスとオペレッタを創作し発表しました。創作は初めは大変むずかしかったのですが、父母の励ましや、発表の後の賞賛の声から、「苦しいことでも頑張つてやれば、後で楽しいことがあるんだね。」(U子)という感想を持ってくれました。

低学年における見学調査活動のあり方

小林幹雄

低学年の子どもたちは、教室の外へ出て行く見学調査活動が大好きです。しかし、一回見学に行くと、それでも満足してしまい、そこからなかなか学習が発展しなかつたり、何を見学に行ったのかはつきりしない見学になってしまつたりすることが多く、日常の社会科学学習の中で、見学調査活動のあり方を反省させられることが多くあります。

そこで、低学年の子どもたちが、社会事象に直面した時、その事象から問題を発見し、さらに発展追究していくには、具体的にどのように見学させ

十一月に行なつた念願のパン作りでは、今までの活動の成就感に浸り、大きな感激を味わえたようでした。そして最近では、麦のことで質問する手紙で交流してきた地域のお年寄りを、教室にお招きして、麦さんの劇や歌を発表する「なかよし会」を待ちました。核家族で生活している子供たちなので、思いやりの心や関心が高まつてきていると思います。

低学年の子どもたちは、教室の外へ出て行く見学調査活動が大好きです。しかし、一回見学に行くと、それでも満足してしまい、そこからなかなか学習が発展しなかつたり、何を見学に行ったのかはつきりしない見学になってしまつたりすることが多く、日常の社会科学学習の中で、見学調査活動のあり方を反省させられることが多くあります。

そこで、低学年の子どもたちが、社会事象に直面した時、その事象から問題を発見し、さらに発展追究していくには、具体的にどのように見学させ

り上げる喜びや、このクラスに所属している喜びも感じてくれているようです。麦の学習から、このような、教科だけでは着けられない力が付きました。この力は、さらに科学学習においても、学習のエネルギーになっていくと思います。

本年度、二年生の『はたらく人』を扱った学習において、まず見学し、まとめる中で、焦点的な問題を持ち、再度見学する」という方法で『店ではたらく人たち』などの単元を流してみました。

『中西パンではたらく人たち』の学習では、一回目の見学で「どうやって給食のパンはつくられるのだろうか」という問題を持って見学し、それをまとめたり、じつさいにパンを作ってみたりしながら、自分たちの作ったパンと店のパン



設備等を深く意味あるものとして見ることができたように思います。

一回目の見学とパン作りで共通基盤に立つことができ、二回目の見学で、目に見える事象の裏にある苦勞・工夫を一人一人の子どもが意欲的に見ることができたのではないかと考えています。

無論、何回も見学にいけない見学場所もありました。その場合には、見学後、学習が発展していくような見通しを持った視点を、明確に持たせていくように心がけました。

そのほか、視聴覚資料(ビデオ)を多く取り入れ、働く人たちの仕事ぶりを前もって、ビデオに撮っておき、見学時に見とってこれなかった点を、ビデオをみせて補いました。

特に、低学年の子どもにとつて、このような視聴覚資料は、働く人たちの様子をより具体的に見とるのに役立ち、働く人の気持ちにせまるものにもなりました。

反省としては、見学方法だけにこだわるのではなく、はっきりとした子どもとらえの上になつた見学のあり方を、今後考えていかななくてはならないと思つていきます。



(粟ヶ丘小)

とり入れまつりの学習に

とりくんで

岩淵久美子

特殊学級というはじめての経験は、明るく素直な子どもたちに恵まれ、はや一年が過ぎようとしている。

はじめに考えたことは、汗を流して働き、働いた結果が形にあらわれ、子どもたちが見通しをもてる活動をしたということだった。そして、学級の柱に農園での野菜作りをすえ、いろいろな野菜を育て、収穫した。それらの野菜を使って、ポテトチップスやカレー、サラダなどの調理実習をして、とりたての野菜をおいしくいただいた。また、毎日たくさんとれたきゅうりなすなどは、休み時間に教室や職員室をまわって先生方に買っていただいた。その中で良質の野菜を売ることや売時の態度についての学習ができ、家で買い物に行った時に商品の値段について興味をもつ子どもも出てきた。

秋になり、大根が大きくなったので、収穫したらどんなことをしたいか話し合った。その中で、先生方に教室へきていただいで買い物をしていただき、そのお金で、おうちのひとと一緒ににおでんを作ろうという考えにまとまった。紙粘土でのブローチ作り、近くの神社へ行ってのぎんなん拾い、学級園で咲いた花の種を、力に繋がついていくだろう。

(森上小)

初めでの道徳研究委員会への参加でした。どの研究会もそうでしょうが、私が今まで参加させていただいた研究委員会も、児童・生徒自らの追求する姿をめざして研究を進めていました。この研究会でも、道徳的実践力を育てるにはそのねらいとする道徳性について一人ひとりの子どもに生きた姿の内面をとらえ、それに基づいて資料を選定し子どもが現に持っている考え、感じ方と資料との関わりから新たな道徳的気づきや新しい生き方が子ども達の心内奥から芽ばえてくるようにしなくてはならないと考え、授業分析を通して「子どもが道徳的な問題に対して自ら気づき追求する学習のあり方はどうあればよいか」というテーマを設定し進められてきました。又、自己教育力という言葉をもどるよう進め

ていったらよいかも小委員会の中で話題にされました。道徳指導にさいして「道徳」の時間の性格の一つに「補充・深化・統合」があげられ、役割は道徳的判断力を高め道徳的心情を豊かにし道徳的態度と実践意欲の向上を図ることによって道徳的実践力を育成するものとされている。これに沿って三つ授業分析の観点

をすえ、その一時間の指導過程の各段階の仕組み・場面の構成が適切であったか研究が進められた。それは「望ましい行為ができな自己の道徳的問題への気づきがあったか」「道徳的価値を追求できれば、感得する場面構成はこれよりか」「自己の道徳的行動を見返し、

道徳研究委員会に参加して

宮下正巳

より高い道徳的価値の確認ができたか」である。行為の反省では、ねらいとする道徳的問題を子ども達の意識にのせざるもとの言葉で自己を語らせるために事前の実態調査を生かす工夫の大切な事、課題を自分のものとして意識化させる切り返しの発問の大切さを教えていただきました。授業の中で、家のお手伝いと学校の清掃の実態調査を表にまとめ

だきました。子どもたち相互の語りかけの場面を仕組むことの大切さ、実践への動機づけの段階では子ども自らがより高い価値を自覚しての立場から自己の行為を内省させそれを発表させて価値への共感を深める事が大切であると教えていただきました。授業で、子どもは授業前と授業後の自分を見返しより高い価値に立った発言をしているが、それに共感し感動的な教師のしめくくりの言葉があればなおよかったです。指導はただけ

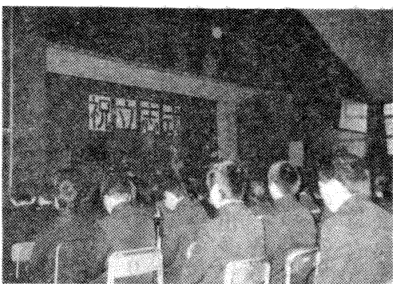
授業では、国鉄金沢車掌区の浜口国雄さんの詩「便所掃除」を資料として生徒にぶつける事ができましたが、他の道徳委員の先生方の今までの実践の上に立った手持ちの資料の豊富さにも接することができたことも、私にとって大収穫でした。(常盤中)

学校づくり⑫

心を育てる

墨坂中学校

「開拓精神」これは当校の生徒職員が心のよりどころとして、昭和三十三年、井上、日野、高甫の三校が統合以来受け継いできている。松、アカシヤ、くぬぎなどの自生する百々川の荒地に、井上の桐、日野のりんご、高甫の梅をそれぞれシンボルとして植樹することから沃土への環境整備がはじまったという。今な



お梅林や桐の木、正面玄関わきには創立当時の松林が自然林として大切に保存され当時の面影を伝えていた。また、校門の左右には校章であるアカシヤの古木が毎日生徒を迎え友情の絆を深めている。居は心をうつつ。先輩の努力によって今日のすばらしい環境ができあがっている。

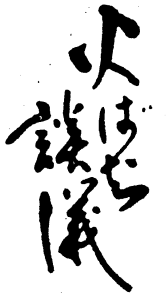
教育活動ではJRCを中心

に生徒会の奉仕活動に力をそそぎ、通学路の清掃、募金活動、寿楽園の訪問や体育祭の招待など全校に呼びかけて行

っている。学校目標(「他を思いやり、共育する生徒」の具現の場として同和教育とともにだいにしている。

特色ある行事としては、二年生の「立志式」がある。昭和四十四年以来二月の参観日に保護者と一緒にその前途を祝福するもので、自覚(自己の行動に責任と自覚をもつ)立志(将来の社会人として高潔な人格形成をめざし、社会のために職業の方向への道を求める)健康(自分の体を鍛練し、たくましい身体をつくる)の三つをねらいとしている。

(栗林重雄)



このごろ、ぬかっていた庭
がかわくようになり、子ども
たちは、喜んで庭へ出ていっ
て、キックベースをしたり、
サッカーをしたり、鬼遊びを
するようになった。やっぱり
一年生は、土の臭いや太陽の
光が大好きだ。

思うこと

西沢明子

ある会の
最中に、
音楽室の
窓から、
二人の女
の子が鉄
棒に走っ
て行き、
逆上がり
をやった
のを見た。
Aさんと
Cさんと
Cさんだ
った。中
位の鉄棒
でAさん
は簡単に
逆上がり
ができた
けれど、
Cさんは
一度目は
、もう少
しのところ
で出来な
くて、二
度目に出来
た。二人
はうれし
そうに今
度高めの
鉄棒に移
った。A
さんはぐ
いとひき
つけて、
一度目で
出来た。
Cさんは
、あごが
上

がっつてしまひ出来なかつた。
するとAさんは、Cさんの前
に行き自分の左足を出した。
Cさんは、Aさんの太ももに
少し泥で汚れた運動靴をの
せてやってみた。AさんはC
さんに足を貸しながら、手
でCさんのおしりを持ち上げ
てやっていた。私は、その様
子がとても自然でほほえま
しく、子どもたちがいとお
しく感じられた。逆上がり
ができない子どもに、足を
貸してやるというやり方は、
私が見て、それをAさんは
見ている。然にそうしただ
けだと思ふ。けれども、自
分の使っている言葉がふと
子どもの口から発せられて
ドキンとすることもある。
たとえば、「よし、して
ごらん」という、上の者が
下の者に対して言っている
ような感じを与える話し方
を、子ども同士の間で使っ
ているのを聞いた時である。
これは、ほんの一例にすぎない
が、こういう時、そうい
えば私も使っていたな、お
ごりがあつた未熟さを見
つけられた思いがするの
である。子どもにとつて、
毎日過している教師の言
動は、その人格を作つてい
く上で、はかりしれない
ほど大きな影響を

及ぼす。「その子は、そ
うでしかありやうがない」とい
う言葉を聞いたことがある。こ
の言葉の意味は、まずその子
を認めた上で、子どもの力を
止めてしまふことなく伸ばし
ていくという考え方だと思ふ。

それと同様に、教師にも「そ
の人は、その人でしかありや
うがない」と言えると思ふ。
でもこの言葉は、甘いよう
でもきびしい面を含んでい
るように思ふ。自分の力を最
大限に使う努力を怠つては
ならないという意味が含ま
れているからである。
私は、少なくとも、日々、
生きて成長している子ども
たちと接しているという心構
えだけは、胸にとめておき
たいと思ふ。
(日野小)

編集活動をふり返つて

上高井教育会にとつて本年
は、明治十八年二月に設立さ
れてから百周年を迎えた、記
念すべき年でありました。
会誌・会報編集委員会は、
本会の記念すべきこの年の行
事や活動を、記録性豊かに編
集することを中心に、一年間
の編集活動を続けてきました。
第一回会誌・会報編集委員

すてきな宝物

原 敏

中学を卒業して六年になる
教子の子の一人が久しぶりの便
りで、看護婦を志し東京暮し
三年、今年は成人式を迎えて
いよいよ希望に燃えて頑張つ
ている様子を知らせてきた。
それには、勉強の厳しさや
看護婦としての大切な心構え
など、そして精いっぱい尽し
てもふりかえると後悔ばかり
で、患者のみんなが順調に回
復して社会生活に戻れるた
めにお手伝いできることは、
とても幸せであり、この道を
えらんだことに悔はない。た
だ本当に責任の重い(今の私
には重すぎる)仕事であり、
早くそれに耐えられる看護婦

に成長したいなあと思ふ。と
あり、さらに、先頃久しぶり
に中学時代の仲間と逢い、後
を引き継いで頑張っている後
輩や母校のこと、思い出多い
なつかしいユニホーム、各試
合でのかずかずの場面やその
プレーのきまだった時のあの喜
びなど、昔話を花を咲かせた。
私は運よく選手として試合に
出れて、みんなに応援しても
らい最高だった。出られなか
った友のことを思うと自分の
ことしか考えなくて後悔が多
いけど、汗を流し涙を流した
いい思い出は、みんな先生の
おかげで味わえた私の宝物だ。
先生は今もそんなすてきな思
い出を作つてあげているんで
より一層会員に親しまれ、愛
される会報にと努力する。)
4、会誌(42号)の割付け。
(1)格調高い内容にする。
(2)親しみ易いものにする。
(3)41号までの内容を踏襲し、
百周年記念内容の特集する。
委員一同微力ながら最善を
つくして編集にあたりました。
会員皆様には、編集の方針
をご理解いただき、お忙しい
中、玉稿を寄稿下さり、内容
の充実した会誌・会報を発行
することができました。厚く
お礼申し上げます。 (編集委員長)

大映栄治

会において、百周年を踏まえ
前年度の活動の反省を生かし、
本年度の編集方針・年間計画
を次のように決めました。
1、会報各号(107、112)の主
たる内容の決め出し。
2、各号編集担当責任者決定
3、会報発行までの活動手順。
(各号担当者は、新たな感覚
でユニークな紙面作りをし、

編集後記

例年に無く、雪の少ない年
ではありますが、まだ春遠し
の感の深い今日この頃です。
卒業式の準備が始まり、何
かと多忙な日々かと存じます。
本年度最終号の会報112号を
お届けすることができました。
「教育会活動の総括」と
「実践をふりかえつて」をテ
ーマに編集しました。
本年度のまとめを大事にし、
新たな展望をもって新学期を
迎えたいものです。
学年末でお忙がしいところ
快く原稿をお寄せいただいた
先生方に厚くお礼申し上げます。
(神林・田中義)